

## 地域に開かれた 大学図書館

米澤 誠 ◎ 文

text by Makoto Yonezawa



多くの市民の方々が集まった  
大学図書館を紹介するイベント

### いつも地域に開かれている 生涯学習施設

東北大学附属図書館の玄関脇には、「平日毎日八時―二十二時 図書館開館中！土日は十時開館」という大きなノボリが掲げられています。年間を通じ、お盆と年末年始以外は閉館することなく、最大限、学習の場を提供しています。

図書館は東北大学の学生に限らず、他大学の学生や高校生、そして一般市民の方も利用できます。そのことは仙台のタウン情報誌にも取り上げられ、多くの市民の方々が訪れるようになりました。二〇一一年度には、約二万八千人の市民の方が来館利用しており、東北大学の中でも屈指の生涯学習施設となっています。

二〇一二年十一月には、市民向けのイベント「使えるんです！大学図書館」を開催しました。この企画では、図書館長が生涯学習の場としての大学図書館について講演するとともに、地下書庫見学を含めた図書館探検ツアーを実施しました。参加者からは、「大学図書館が生涯学習の場となるとは、大変勉強になった」「多くの蔵書に驚いた」「これからも一般人を多く大学に招いてください」などのコメントが寄せられ、好評でした。

### 中高生生の学習意欲を高める 図書館ツアー

東北大学のオープンキャンパスは、多くの中高生を集めることで有名です（なお、朝日新聞出版『大学ランキング2013年版』



解体新書

のオープンキャンパス参加者数では、105大学中4位となっています。実は、それ以外の時期でも、図書館を訪問してくる中学高校が多くなっています。引率してきた教員の方に聞いてみると、決まって「大学生たちの勉強する姿と、大学図書館の膨大な図書を目の当たりにすることで、生徒に大学進学への意欲を高めてほしい」との言葉が返ってきます。

中高生向けの図書館ツアーでは、学生用の閲覧室やパソコン自習エリア、研究用資料がある地下書庫を案内します。大学図書館のもつ多数の図書雑誌に驚く生徒は、最後に用意された「解体新書」などの古典籍を目の前になると、「これは本物ですか？」「教科書に載っているのと同じだ！」との声をあげます。とりわけ人文社会系の学部を目指す高校生にとっては、刺激的な見学ツアーとなっているので、高大連携活動の一環としてこれか

らも積極的に実施していきます。

### 学術文化への興味を促す 図書館資料の展示

秋に開催している企画展は、年に一度の図書館資料を公開するイベントです。二〇一一年には「煌めきのコレクション」と称した、図書館創立百周年の企画展を開催しました。

その展示会では、国宝一点（『史記』と『類聚国史』）を始めとし、「百万塔陀羅尼」<sup>ひやくまんとうだらに</sup>、「奈良絵本」<sup>ならえほん</sup>、「嵯峨本」<sup>さやまほん</sup>、「徳川秀忠書状」などの日本の文化をたどる歴史的資料や、『資本論』『種の起源』などの西洋古典の初版本、夏目漱石直筆の画幅や漱石から土井晩翠に宛てられた絵はがきなど、貴重なコレクションを多数展示しました。来場者からは「東北大の学問に関する熱意を感じた」「日本の宝を今後も大切に保存して後世に残してほしい」などの感想が寄せられました。

東北大学附属図書館は、貴重な古典資料を所蔵する日本でも有数の図書館です。今後、学術文化への興味を促す展示会などを開催していきたいと思えます。



米澤 誠 (よねざわ まこと)  
1959年生まれ  
現職／東北大学附属図書館総務課長  
専門／図書館経営論、図書館サービス論  
<http://tul.library.tohoku.ac.jp/>